

環境審査顧問会自然環境分科会
議事録

1. 日時：平成18年7月28日（金） 14:00～15:30

2. 場所：経済産業省別館3階第4特別会議室

3. 出席者：

（顧問）

阿部主査、河野顧問、森川顧問

（経済産業省）

金子環境審査班長 他

4. 議題：(1)環境影響評価準備書の審査について
・(株)扇島パワー 扇島パワーステーション

5. 議事概要：

(1)開会の辞

(2)配布資料の確認

(3)(株)扇島パワー 扇島パワーステーション環境影響評価準備書に係る審査に当たり、事務局から質問事項への回答、補足説明資料、審査書(案)に基づき説明がなされた。

<質問事項への回答及び補足説明資料について>

【顧問】1ページの植栽でイタヤカエデからトウカエデに変更されており、「耐潮性を考慮し」とあるが、耐潮性はあるのか。トウカエデは移入種だから、そぐわないのではないか。

【経済省】トウカエデについては再確認する。

【顧問】35ページの餌量の推定のところで、必要なエネルギー量と餌の量をイコールに計算しているのではないか。生体効率を考えると必要なエネルギー量以上の餌を食べないとだめなはず。昆虫類は生体効率が15～20%程度と思われるので、本当ならもっと必要餌量が多くなる。

【顧問】私もフクロウなどを調査しているが、餌量の推定は非常に難しい。ここでは重量などでやっているが厳密に言うと、呼吸・餌の種類・排泄量なども考慮しなければならない。今回の餌現存量から改変の影響を評価しようという方向性については、これまでより一歩進んでおり、このような「ものさしを持って評価をする」という方向に向かうことは大いに歓迎すべきことであると思う。

【顧問】ハクセキレイもコチドリも、餌となる虫の現存量と必要量の数値があり、計算上の話だが、最大時には2日間程でほとんど食べ尽くしてしまうことになる。数字を出す以上は、合理的な説明がないといけないと思う。

【経済省】現存量自体が既に繁殖している親鳥と雛が食べた後に残っている昆虫類の量を調べているという考え方ができるのではないか。また必ずしもテリトリー内では捕食しないというわけではないこと、さらに昆虫類については一年間同じものがいるのではなく、短期間で世代交代が行われていることも考えれば、全くゼロになるということはないと考える。

【顧問】安定した生態系であれば現存量は一定であるが、対象事業実施区域の環境は安定とは言えないので、昆虫が増える速度と摂食される速度は同じでないはずなので、現存量が一定であるとは言えないが、この場合は一定であると仮定すればよいのではないか。

- 【顧 問】調査方法に「スーピング調査」とあるが、特にハクセキレイは水際で捕食することも多く、数値に狂いが生じる一因だと思う。調査手法が確立されていないものについては、使える手法でできるところまで正確を期すことが必要だと思う。注意書きなどで矛盾点がないように、もう少し納得できる表現の仕方をした方がいいと思う。
- 【顧 問】スーピングの結果を全て均一として全体にかけて計算しているが、現地調査において質問した意図は、「環境類型区分について、例えばA区分は採餌行動の頻度が高いという理由だけでなく、ハクセキレイが裸地でどういうものを食べているのか調べ、その餌となるものが多いからA、というように好適性区分の中身を明確にしてほしい」ということ。調査が難しいことは分かるので「均一だと仮定して計算すると」という説明が必要だと思う。
- 【顧 問】何を食べているかというのが餌現存量を調べるのに重要なことである。研究レベルでいえば、カメラを設置して観察したり、首輪をはめて餌をせき止めて口からつまみ出す方法や、催吐剤を飲ませて胃の内容物を吐かせて調べることもある。これから精度を上げていくうえで、食べているものそのものの現存量を推定するという方向が、流れとして正しいと思う。
- 【顧 問】せっかくテリトリーを調べて議論しているのに、そこがいかされずに評価がなされていると思う。「一時的にテリトリーが消失するかもしれないが、外に類似の環境があるので影響は小さい」と言っているが、それはおかしいのではないか。外には外のテリトリーがあるので、外に同様な環境があるからよいという評価はできないと思う。
- 【経済省】生息域はテリトリーより広範囲であり、生息域同士が重なり合うことはあり得ると考えている。
- 【顧 問】いずれにしても、テリトリー外では既存のテリトリーに妨げられるので繁殖はしにくくなる。そういった点は認識しておくべきである。
- 【顧 問】何か事業をやるときに、その影響が軽微であるとか、少ないとか言いたがるが、それは無理な話だと思う。改変すればそこに住んでいるもの、土壤動物含め必ず影響を受ける。無責任なことを言うよりは、あまり隠さず評価した結果をそのとおり正直に言うべき。

< 審査書(案)について >

- 【顧 問】工事車両について増加率で表示されており、もともとベースラインが高いところにあるから「数%の上昇なので影響は少ない」とされるが、こういう場所については増加台数を示すべきではないか。これからはベースラインと増加率に加え、増加台数を記載するようにしていただきたい。
- 【経済省】検討する。
- 【顧 問】生態系のコチドリの評価で「コチドリの営巣地及び採餌場所は一時的に消失することになるが、その後に代償措置をとるので影響は少ない」ということになっている。代償措置をとるからいい、というのではなく「回復は可能と考えられる」と書いたほうが前向きでいいのではないか。
- 【顧 問】5ページの上から5行目のイソシギについて、「水鳥であることから水域に依存して生息しており飛翔の確認は海上のみであること」という部分は削除すべきである。例えばガンやカモは水鳥だが、水上のみで生活しているわけではないし、繁殖も陸上である。水鳥だから水域に生息するなど書く必要はないと思う。
また、コチドリの生息の場を新たに造成する、あるいは草地を復元する、とされているのが本当にそうになっているのかを我々は知る立場になく、2年後、3年後に「今こうなっている」という情報を聞かせてもらえると、審査に係わる者としてもありがたい。
- 【顧 問】準備書 8 . 1 . 7 - 3 ページ、住民意見が生態系のところでもでてくるが、食

物連鎖図において、8.1.7-2ページで示されるエリアが対象になっていると思われるが、具体的にどの辺の領域についての文献調査結果なのかがよく分からない。高次消費者として、チョウゲンボウ、ハヤブサ、オオタカ等とあるが、これらは対象事業実施区域では確認されていないことになっている。文献上でどの地点で確認されたか分からないと、四季の調査でたまたま観察されなかっただけではないかと捉えられかねない。概ねどこの地点なのかなどが分かれば、評価書で記載していただきたい。

【経済省】事業者を確認し、検討する。

(4) 閉会の辞

以上